

「しんぶん赤旗」電子版スタート

日本共産党が発行する「しんぶん赤旗」電子版が7月2日からスタートしました。スマホやタブレット、パソコンで、毎朝6時から見ることで、

手続きはしんぶん赤旗電子版のサイトから行います。

①しんぶん赤旗電子版のサイトから、「お申し込み」をクリック ②お申し込み画面にお名前・メールアドレス・パスワードなどを入力し送信

③本人確認用メールが届きます。URLをクリックして登録手続き（お客様情報の入力） ④クレジットカード情報の登録 ⑤購読お申し込み完了後すぐに紙面をお読みいただけます。

※電話でのお申し込みは受け付けておりません。ぜひこの機会に、「しんぶん赤旗」をご覧ください。

毎朝6時から見られます
月額 3497円
テキスト記事は1日40～50本。過去1年分の記事が検索できます
いつでもどこでも鮮明な画面
トップページから紙面ビューワからテキストを選択できます
お住まいの場所だけでなく、全地方版もご覧いただけます
紙面ビューワでは日刊紙のすべての面を1カ月分ご覧いただけます

安倍内閣退陣スタンディングが100回目

安倍内閣の退陣を求める100回目の船橋駅南口スタンディング
6月23日・JR船橋駅南口



船橋駅南口で毎日行われている「安倍内閣の退陣を求めるスタンディング」が6月23日で100回目を迎えました。この取り組みは、「船橋からも声を上げたい」との一人の女性のツイッターでの呼びかけから始まりました。

これまでも自民党を応援しているという男性が「安倍総理だけは好きになれない」と話しかけてきたり、飛び入りの若い女性が「介護の仕事が好きなのに給料が安くて続けられなかった。これも安倍総理が福祉を削ったからだ」とマイクで話したこともあり。100回目のこの日も、雨の中、立ち止まって聞いてくれた人が少なくなく、拍手をしたり、拳をあげるなど、共感を示していました。

いま、安倍内閣退陣へこうした市民の取り組みが全国各地で行われています。「ひどい政治を目の当たりにして声を上げなければ、それを認めたことになる」と主権者としての思いが広がっています。

米朝首脳会談をめぐる「懐疑論」をどうみるか 「合意には簡単に後戻りできない重みがある」

6月12日に行われた歴史上初めての米朝首脳会談以降、両国間では合意を具体化する動きも始まっています。一方、「具体策が乏しい」などの意見も出されています。こうした疑問について日本共産党の志位和夫委員長（写真）へのインタビューから関連部分を紹介します。（インタビューの聞き手は小木曾陽司赤旗編集局長）

小木曾 日本メディアが初めて会って、一回の首脳会談ですべての問題が一挙に解決するなどというこ

うな合意を米朝でやっているのに、何度も裏切られてきたではないか」という議論についていいますと、「過去の合意」とは決定的に違うことがあります。それは首脳間の初めての合意だということ。朝鮮半島の非核化に関する過去の合意では、1994年の「米朝枠組み合意」があり、2005年9月19日の「6カ国協議の共同声明」があります。たしかに、この二つの合意は履行が中断されました。ただ、どちらも外務次官・局長など実務者レベルの合意なのです。今度は首脳間の合意です。ここが決定的に違います。この合意を覆せるのは首脳しかありません。簡単には後戻りしない重みをもっている。

志位 そうですね。私は、そういう議論は、いま起こっている動きの歴史的意義を見誤っていると思います。いくつか述べたいのですが、第一に、今度の首脳会談というのは、「平和のプロセスの始まり」というところに歴史的意義があるということです。だいたい70年にわたって深刻な敵対関係

を続けてきた米朝の首脳が初めて会って、一回の首脳会談ですべての問題が一挙に解決するなどというこ

小木曾 不可逆的という意味をもっている。

志位 そうですね。そういう意味では、不可逆的、重みをもっている合意だということが言えると思います。

第二に、「過去にも同じよ

うな合意を米朝でやっ

